

リハ専門相談 事例紹介シリーズ⑪

自立した生活を続けるための支援

～自宅からグループホームへ入所したケースへの対応～

住環境は日常の生活に大きく関わる要因の1つになります。日常生活を安全に続けていくためには、身体機能低下や障害に即して、動作やADLの方法、福祉機器の導入など検討していく必要があります。今回は自宅からグループホームへ新規に入所される方で、動作方法や住環境整備へ関わりをご報告させていただきます。

行政CWからの相談により、PT、OT、SWで訪問しました。ケースは脳性マヒ、今までご自宅ではADLは自立していました。移動は屋内は伝え歩行で、屋外は両口フスト杖と金属支柱付き短下肢装具使用で、日常生活での歩行は自立していました。グループホームにおいても、同様の生活が送れるよう実際の環境下での動作やADL評価を行いました。〈屋外への出入〉 居室と玄関からの出入りを検討し、装具の着脱や立ち座りなどを考慮し玄関からの出入りとししました。ただし、玄関の上り框の高さが低く装具の装着が困難であったため、椅子を利用し座面の高さを調整することで装具の着脱が可能となりました。〈屋内移動〉 廊下の一部に手すりの設置していない部分があり、伝え歩行に不安定さが見られました。そのため、歩行を安定するための必要最小限の手すりの設置を提案しました。〈トイレ動作〉 模擬的に動作確認を行い、トイレ動作は可能でしたが、トイレへの移動の際入り口付近に掴まる場所がなかったため、棒状の手すりの設置を提案しました。〈入浴動作〉 模擬的に衣服の着脱、浴室内の移動、浴槽内への出入りを確認しました。脱衣所での衣服の着脱は今まで行っていた床にしゃがんで行う方法で可能でしたが、床から立ち上がる際に不安定となるため、浴室入り口の扉横の上肢で支えやすい位置に縦手すりを設置することを提案しました。浴槽の出入りは、今まで行っていた立位で跨ぐ方法が困難であったため、シャワーイスを置き、それに腰かけて座って跨ぐ方法を提案しました。動作が可能であったため、シャワーイスの購入を提案しました。

生活環境が変わることにより、今まで可能であった動作や移動が難しくなる場合があります。今までと同様の生活を続けていくためには、実際の生活場面で動作を確認し対応を検討する必要があります。今後も地域リハ支援センターでは、実際の生活場面を訪問し、身体機能と環境を考慮した対応を提案していきたいと考えています。

(小泉千秋)

